

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏名	今井重男
研究課題	ブライダル産業およびブライダルサービス研究				
研究キーワード	現代ブライダルサービス	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>(1)「ブライダルの歴史および変遷研究」に関しては、拙稿「近代日本のブライダル報道」(2017) および「近現代日本のブライダル報道Ⅱ」(2019) の続編として、昭和時代(後半)30 年間と平成時代の計 60 年を追いかける「近現代日本のブライダル報道Ⅲ」(仮称) をまとめ、近現代のわが国のブライダルに生じた現象を解明する計画をたてたが、最終年度を迎えた経済研究所助成研究を優先したこと、ならびに学内業務の多端のために未達に終わった。</p> <p>(2)「エシカルウエディング」については、わが国のブライダルサービスに関わるエシカル視点での「フード」、「引き出物」、「フラワー」、「ジュエリー」、「ドレス」および「プロデュース」の実態を研究した。わが国のこれまでのブライダル諸活動は、慶事であるブライダルには贅を尽くす、すなわち豪華絢爛が喜ばれ、エシカルの概念導入は一般化していなかったが、近年それが改まる兆しが見られることを確認した。特に、披露宴・パーティーにおいて、結婚するカップルがエシカル農業によって育て収穫した作物を使った料理(エシカルフード)の導入に関して、体験型農業を主宰する指導者・関係者、あるいは地産地消を掲げるレストラン経営者らと議論し幅広く事例を収集できた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>昨年度は、【論文 (査読あり)】・【著書・論文 (査読なし)】・【学会発表等】等の業績をあげていません。</p> <p>2023 年度はこれを繰り返さないようにする所存です。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>学会年会費、関連書籍の購入や PC 代、体験型エシカル農業指導料等に使用しました。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)</p> <p>【科学研究費】</p> <p>基盤研究(C) 20K12432 : 令和 2 年度～令和 4 年度(1 年延長申請了承済み)、研究代表者、「我が国ブライダルツーリズムのビジネスモデル化研究」、429 万円</p> <p>【千葉商科大学経済研究所プロジェクト】 2022 年度終了</p> <p>令和 2 年度～令和 3 年度(1 年延長申請了承済み)、共同研究者、「訪日外国人旅行者による新婚旅行の特徴と発展可能性に関する考察」、240 万円</p> <p style="text-align: right;">(本文は 2 ページ以内にまとめること)</p>					